

市地方裁判所で弁護士なしで裁判をするために

本人訴訟をお考えの方へ

法的手続きを理解し、それを実行することは容易ではなく、かなり戸惑うこともあるかもしれません。特に弁護士なしで自ら裁判を進める際は、ストレスを感じることもあるでしょう。州裁判所や地方裁判所には膨大な規則があり、市地方裁判所に出廷する人々は皆、そういった規則に従うことが求められます。以下の内容は、弁護士なしで裁判を進める際に生じる疑問点を解決する一助となるでしょう。

市地方裁判所での通常手続き

保護命令、接近禁止命令：保護命令と接近禁止命令に関する手続きは郡によって異なります。お住まいの郡での手続きについては、管轄の上級裁判所、郡地方裁判所または市地方裁判所にお尋ねください。

違反：違反とは法律によって禁止されている行為ですが、法律上は犯罪と定義されてはいません。違反行為を行うと、裁判所から罰金を科せられます。違反行為は犯罪ではないため、裁判所は被告を拘留することはできません。違反行為で出廷命令を受けた当事者は弁護士に弁護を依頼することはできますが、公選弁護人をつけてもらうことはできません。

違反行為による出廷命令には、三つの返答方法があります。返答方法は出廷命令書の裏に印刷されています。量刑審理（mitigation hearing）を求めると、裁判官に違反行為を認めた上で状況説明をすることができます。それによって裁判官が罰金の減額を許可することもあります。違反をしていないという主張を貫きたい人は、不服申し立ての審理（contested hearing）を求めることができます。あるいは、罰金を支払うだけでも構いません。据え置き裁定（deferred finding）の対象者であれば、最終的に交通違反を取り消してもらえることもあります。出廷命令が下された日から15日以内に審理の請求を行う必要があります。返答を怠った場合は、元々の罰金にさらに52ドルが強制追加されます。交通違反に対して指定期間内の返答を怠ると、ほとんどの場合、返答を怠ったことが運転免許証課（Department of Licensing）に通知され、運転免許証の停止処分を受けることもあります。駐車違反や取り締まりカメラに記録された違反は、選択する審理の種類を問わず、運転経歴には残りません。違反審理を郵便や電子メールで行なうことができる裁判所もあります。

刑事起訴：刑事事件で起訴されたら、弁護士に弁護を依頼することが重要です。もしあなたが刑事事件で起訴され、懲役を科せられる可能性があり、罰金やその他の重大な影響を被る可能性もある場合は、審理には必ず弁護士を同行させる権利が認められています。あなたに弁護士を雇う金銭的余裕がなければ、裁判所が公費で弁護人をつけることもあります。刑事事件の弁護人はあなたの権利を守り、すべての審理であなたを弁護してくれると同時に、事件に関する選択肢の提案など、あなたに助言もしてくれます。

さらによく詳しい説明は裏面をご覧ください。

知っておくべき専門用語

1. **カレンダー[Calendar]**（**訴訟事件表[Docket]**ともいいます）：法廷で審理されることになっている訴訟事件の一覧表
2. **訴状[Complaint]**／**出廷命令書[Citation]**：刑事訴追を開始するための文書
3. **一方当事者の[Ex parte]**：ラテン語の語句で、相手方に通知することなく、一方当事者だけのために、一方当事者だけが利するように、一方当事者だけの申請によって行われる法的措置のこと。
4. **申立て[Motion]**：一方当事者が裁判所に救済命令を求めて（通常は書面で）出す要請。裁判所に対する正式な書面による要請。
5. **命令[Order]**：裁判所が発する指示または命令で、裁判歴に残る。
6. **嘆願書[Petition]**：法律に従った何らかの救済を裁判所に要請するための正式な申立て文書。
7. **本人訴訟[Pro se]**：ラテン語の語句で「自分のために」という意味。（本人裁判をする人々を指す）
8. **召喚状[Summons]**：出廷義務があることを通知する書状

法廷での服装や態度はどうするべきか？

法廷は敬意を払うべき公式な場所です。法廷という場で争って勝訴に導くためには、法廷にふさわしい服装をすること、法廷にふさわしい話し方やふるまいをすることを心がけましょう。

1. 不要な注意を引かないよう、清潔で小奇麗な服装にします。
2. 帽子はかぶらず、ショートパンツ、へそ出しルックやタンクトップなどといった露出度の高い服装は避けましょう。
ただし、宗教的な服装は例外とされる場合があります。
3. 携帯電話やポケットベルの電源は切っておきます。
4. 礼儀正しく、はっきりとした口調で話しましょう。相手方ではなく、法廷に向かって発言しましょう。
5. 裁判官に向かって発言している人の話を遮ってはなりません。
6. ダラダラと長話をせず、要点を言いましょ。裁判官の判決に関連することだけについて発言しましょう。
7. ガムを噛んだり、大声を上げたり、暴言を吐いたり、不適切な言葉遣いをしてはなりません。
8. あなたが裁判官で、誰かが有利な判決を求めていると想像してみましょ。その人たちがどう振舞えば、あなたは別のことに気を取られず、事実を公平に評価できると思いますか？

役に立つ電話番号とウェブサイト

1. 法律情報：www.WashingtonLawHelp.org または www.lawforwa.org
2. 用紙のダウンロード：www.courts.wa.gov/forms
3. 州裁判所・郡地方裁判所の規則：www.courts.wa.gov/court-rules/
4. この地域の管轄裁判所のウェブサイト

裁判所職員は弁護士ではないので、法的な助言をすることは法律によって禁じられています。

裁判所職員は記入済み書類の不備の有無を確認することはできません。

ご自身の訴訟について裁判官と直接話すことができるのは、法廷に出廷している時に限ります。

AOC Public Trust & Confidence Committee